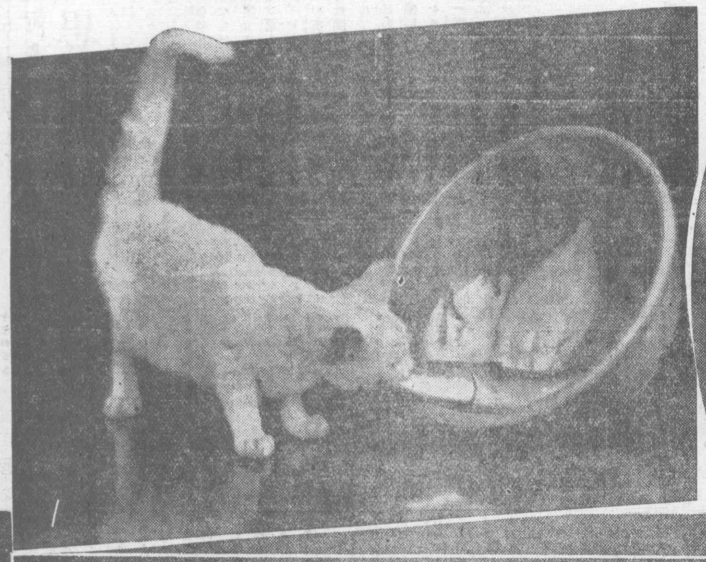
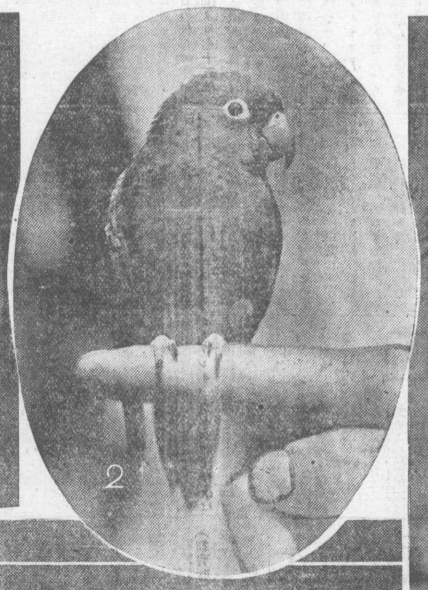
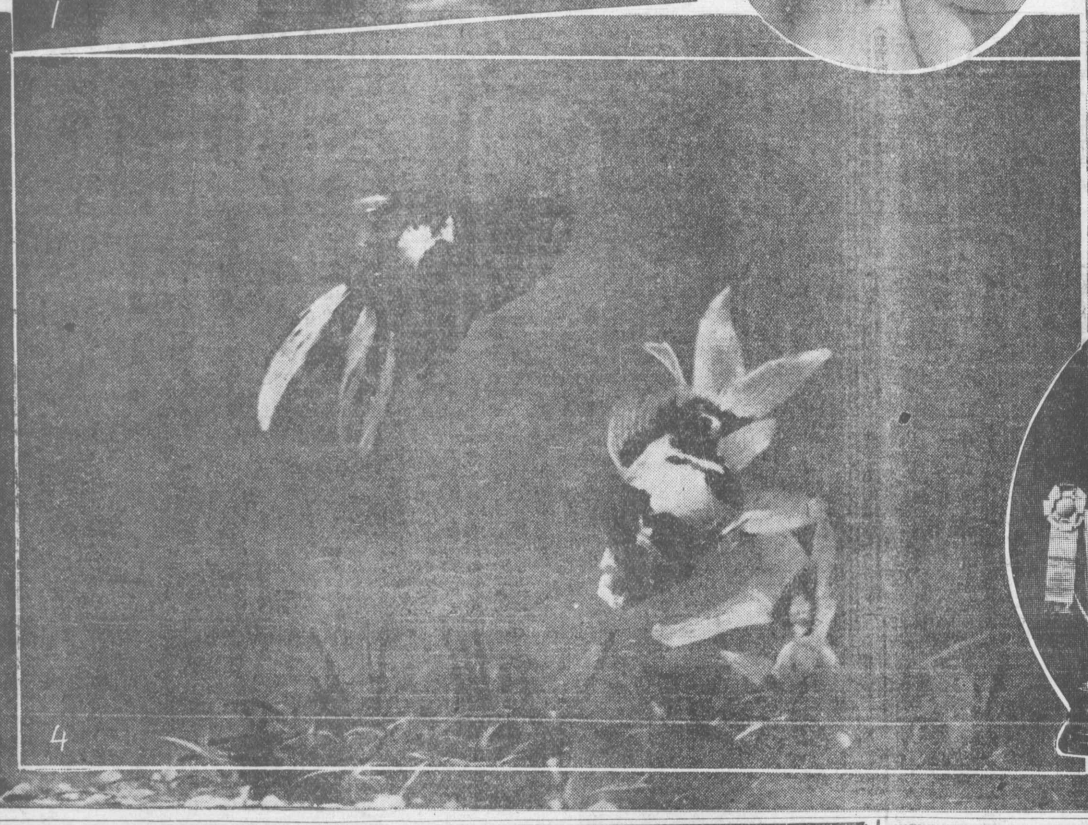
650 ELLIS STREET
SAN FRANCISCO, CALIFORNIA,

SUPPLEMENT TO
日米 The Japanese American News 附錄

AUGUST 17, SUNDAY, 1930
NO. 11065







可愛らしい動物

1 「小笠」＝これは曾て本社主催懸賞寫眞競技會に入選した猫の寫眞です（に府荷田氏作）

2 「ハロー・パーレー」＝今では鸚鵡病の爲め妻をひそめてゐるが、可愛いものです

3 日本產「狆」小笠原淵正氏愛犬、各地の品評會に優賞を得てゐるもの

4 無邪氣な金魚＝今では日本の輸出品を種に盛んに米國内で養殖されてゐる

5 ローラー カナリ鑑鳴會で入賞した優秀ローラーと銀盃

!! 經濟と健康は米の華から !!

米の華

〔御飯の味の素〕
專賣特許

御飯が素的に美味しく
飯汁（おねば）が吹出さず
早く炊け、腐らず
滋養を増す米の華

⊙使用法は極簡便で一鍋は白米百五十斤即ち一袋半に使用出來ます

米國一手販賣店 桑港 高桑商會
代理販賣店 桑港 北米貿易株式會社

珍らしい小鳥動物園

ローラー、カナリー、ボーリー、ラブボード、鶯、目白、頬白、山雀
十姉妹其他あらゆる珍鳥、小犬、ワニ、金魚各種、毒クモ、毒蛇其他
あらゆる動物を網羅してゐます、是非一度店内を御一覽下さい

むさしの珍鳥金魚商會

羅府南メーン街一二五
電話MU（ミューチュアル）四五一二

店主 酒井硯三
店員 同 菊枝
山本 セツ子
畑中 ヨシ子

イージー洗濯機械 日本人部代理店

巴里に來て

井上勇

四至本さん。

通りすがの旅人が如何に多くの誤つたアメリカ印象記を讀めば、こんなものは確かに嘘だ。貴方がたはよく御存じです。私はフランスだつて同じことに過ぎないのだ。そして私がいまその通りを繰返そうとしてゐるのが貴方がたの笑ふ種です。そこで私はこゝに書くことは無責任であつて、また聞きでもなく、噂でもない！まづそうした心持を條件として私の歐洲通信の第一文として貴方に送つて見ます。

○

私がこゝに來てからまだ十日の餘にしかなりません。私はまだ十日の間に出來事にのみ話を限つもりです。さて

生活

パリーは夜の八時頃では第廿時と申してゐます。私のゐる街はモンパルナスの盛り場の横町。夜の街のない樂園はいはばフランスの出店のやうなもので問題はありませんが明日はイヴェットと、ギヤスです。御承知の通り獨逸はこの問題が最も嚴しく、敵国はこれに對して、自動車といへばアメリカの製品がもつと安くてあるだけ、ドイツ人は想像してゐました。

四至本さん。

お酒のつぎは必然に來たるべきしかもパリー名物の話があつて、人氣が落ちさいふのであるから、ならば四至本さん、貴方がお金持ちが飲んでおけたらよい物に接するやうな氣持で富士山を待つてゐる。

○

海波

船は新緑の裝ひをこゝらに展げ鳥に近づいた。

久しく別れて暮した故山の姿がだん〜はつきり見て來て船にぬけ、しこと眼もない。漁船が行き過ぎる。

「もう小笠原諸島を通過した」そんな報が船内に響いた。

○

ヨコハマのなつかしい市街が船の先にだん〜浮いて來る。立ちのぼつてゐる。白い高いビルディングが浮いてゐる。

○

「XXさん、XXさん、XXさんはいらつしやいませんか」と一人の赤帽が大聲で怒鳴り名を呼びながら探して來た。

「わゝ、こゝに居ますよ」

妻が手を挙げて知らした。

「お國元のお母さんがお出迎ひです。お宿は金龍館にしてあります」

と言つて母よりの手紙を届けくれた。もうそれだけ分つてゐれば手紙は讀まなくてもいゝ。私はその赤帽にすつかり荷物を渡した。私共は母の帽子を配慮した。子供のぎをせねばならぬ。

○

「XXさん、XXさん、XXさんはいらつしやいませんか」

と一人の赤帽が大聲で怒鳴り名を呼びながら探して來た。

「わゝ、こゝに居ますよ」

妻が手を挙げて知らした。

「お國元のお母さんがお出迎ひです。お宿は金龍館にしてあります」

と言つて母よりの手紙を届けくれた。もうそれだけ分つてゐれば手紙は讀まなくてもいゝ。私はその赤帽にすつかり荷物を渡した。私共は母の帽子を配慮した。子供のぎをせねばならぬ。

○

しかし、「解放」祝賀會はヒンデンブルグがこれみよがしに乗り込まうとしてゐることには例のラインランド獨立主張派の人々に甚だ惡感を抱かせてゐます。

殿堂組織準備會

四至本さん

横濱西人は讓好きの國民だ。特に婦人は讓好きの國民だ。

○

盛んにのんでゐます。發に戰後の道具ですが、いまは戰前は夏休みに話題例のブリアンの提唱で集まつてゐます。

○

「ブリアンの提唱で集まつてゐます。」

○

「ブリアンの提唱で集まつてゐます。」

○

「ブリアンの提唱で集まつてゐます。」

日本近信

餘りにも傷ましい 紀南木材界の慘狀

伐れば伐るほど損がいく 輸入材の制限方を力說

この間のこと和歌山縣新宮町の山和植松家で祖父祝二郎氏にしばらくは一層その度を加へ憂慮すべきものがある。

やうと三千圓の山林を伐り出し製材して大阪市場に送つたところ山代、別にして一本について鐵丸風づゝの損でもたといふが、これなどはまだ優しい方で今の新宮木材界では山持ちは伐ればゝるほど損がいくし製材業者は製材するほど行き詰まつてしまひ、二重三重に動きが取れないといふのが木材界の現狀である。十日午後新宮木材同業組合事務所において行はれた農林省事務官を中心とする懇談にもこの點を杉本組合長から縷々陳述し、現在新宮町の製材工場能力が一年約八十萬尺しかないのに對して、やつと三十萬尺しか輸入木材が下らないのでは失業者の大群をきたすやうな事情にあるとの說明があつた。

途は外材や輸入木材の輸入を制限する以外に途ない旨を力說し、農林省も餘りにいたく同情し、本年度は一年の流下木材は十二萬尺の程度を豫想さ

木材勞働者九百中 六百名は失業

新宮町木材組合では打ちつゞく木材界の不況により目下木材界はあつて伐採を控へ、製材工場にあつて材料拂底に操業短縮もしくは休業をなし、在郷軍人分會員の九百名のうち六百名は失業狀態となつてをり、しかも本年の流下木材は十二萬尺に比し約半數の六萬四千八百九十七名が職を失ひ、ピーク時の三十萬尺しかない程度を豫想さ

獨身者の娘達で 消防隊が出來る

男の出稼の留守を守つて ―青森漁村で大流行―

津輕半島西海岸十三村では今度婦人ばかりの消防隊が作られ、その發會式を今月中に華々しく行ふことに決したが、青森縣下にはかうした處女の消防隊が多くあり、殊に下北半島田部町の第三消防組を始めこれで五、目下、各地の漁村に組織をやうとしてゐる。これらの消防隊は十人命令で、ポンプ操作は十人命令で、ポンプ操作は十人命令で、ポンプ操作

文藝

▲ノ切 木曜日 ▲宛名 文藝部 ▲字数 明歌に

詩

盲目

加川文一

シガーの卵へたプロペラーと云ふ大き蜘蛛ゝ
電報と電話ゝ集ゝ張って
百姓ゝ汗ゝ調りで飲んで了ま
はうとしてゐるーぞ

○

靴にすりの切れるまゝに
カーキー色ゝ前掛ゝ掛けて
日語ゝ英語ゝ露語ゝ
喋り立てゝは商賣する

疲労をたべ
疲労を消化して生きてゆく
人間もある

きんな愛も
きんな荒地に注ぐ雨も
彼の住所を知りはしないだらう

自らを血に押しつけて
俺ゝ今日もきんな涙ゝ押し出
して

いかは知らなかつた。
大陽ゝ沈んで
絶望だけが歴史の色をして
暮ゝ靄ってゐる

私は考へて見なかつたのだ
私ゝ狀況もなく埋れてゐる
盲目にすぎないことを——

で拳ゝ見れば
肉眼ゝ厚ゝ拳ゝ侵略するでは
ないか
かゝる時
私は私の顔蓋骨ゝ
生への執着ゝ腰してゐたいの
だ
若葉ゝ記憶へと折曲してゐる
田舎ゝ一本道ゝかくすように

夏の市場の雑景

外川あきら

「4」

この頃はすつかり影ゝ消しした裏通りのホテルの窓からやつれた青白い顔をして來客ゝ待つてゐる賣春婦。

○

だが勞働者は語り合ふあの女給は金はいらぬのだ酒さへうんと飲ませたら

二階のオフィスゝ覗けば

汽車はまつすぐゝ乾草の野ゝ
ゆく
僕の想はまつすぐに彼の女
もとを
柿ゝ冬ゝかけまくり車中の食卓
に
ほろ苦きコーヒーの酒搖ゝた
しなむ
僕の想ゝ殺し、現實と現實
との懸隔ゝましきを戰はず現實ゝ
僕の神経をサキューグラス
戀ゝ愛せしむ
凡ゝる清算しきれない理論は
凡人ゝ人ゝ識ゝ理解ゝ教は哲ゝ
僕の二枚のキリフダを無効に

せしむる
僕ゝ悩ましい神経ゝ旅より解
へゝ現實と現實を戰はせ
一ぱいのゝ井スキーはリキュ
ーグラスゝ抱擁し
僕ゝユガメられたる唇ゝよの
美しき
僕ゝ八のうたゝ流れる
僕のスエロ曼ゝ、ともに
ゆくならゆくといつとくれ
持たせてやりましよこの心
女心のはかなさは
ゆめであなたとふたたびつれ
八月八日車中より

二枚のキリフダ

中川登志雄

破默一言

(二)

高柳沙水

所でその。城君の評論である。つく。かゝる卑劣なる心理の解釋ゝ、氏ゝ評論ゝ、ゝ米歌壇に賣名言を列べ立てる間は、歌壇の向上進歩は遅なきは百年河清を待つに等しい迂愚さである。

各歌壇ハは毎月歌誌の二三冊ゝ、雜誌ゝ、遠き昔、まだ短歌ゝ有者ゝ、ゝ、ゝ、